

“女声の魅惑 / オペラや歌曲と共に”

藤井麻美
mezzosoprano

種谷典子
soprano

村上寿昭
piano

※マスクの着用を必ずお願いいたします。
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2021年04月17日(土)

開場 13:00 afternoon live

開演 13:30

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC=3500円 + 2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



藤井麻美

洗足学園音楽大学及び同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員としてイタリアのペーザロにて研鑽を積む。留学中ベンベヌート・フランチ国際オペラコンクール2017にて「Il premio di trequanda」を受賞。パヴィーアのカルボネッティ劇場国際オペラコンクール2017では、「Vincitore di Suzuki」を受賞し副賞としてその後ロンバルディア州内の劇場にて「蝶々夫人」スズキ役でデビュー。その後イタリア国内複数の劇場に出演し、北イタリアのガルダ湖リモーネ音楽祭ではベルゴレージ「スタバト・マーテル」のアルトソリストとして出演。帰国後、日本トスティ協会より「山口佳恵子賞」を受賞。これまでにオペラでは「フィガロの結婚」マルチェリーナ、「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ、「リゴレット」マッダレーナ、「椿姫」フローラ等に出演し、宮本亞門演出「蝶々夫人」スズキ役で東京二期会にデビュー。日生劇場では「魔笛」童子Ⅲ、「ヘンゼルとグレーテル」お母さん、「ルチア」アリーサ役で出演。「第九」のアルトソリストとしては、セイジオザワ松本フェスティバルや飛騨高山千人第九等に出演。洗足学園音楽大学講師。二期会会員。

種谷典子

広島県出身。国立音楽大学声楽専修及び同大学院修士課程オペラ専攻と共に首席で卒業。学部卒業時に武岡賞を、また大学院修了時に声楽専攻最優秀賞受賞。読売新人演奏会に出演のほか、宮内庁主催桃華楽堂新人演奏会にて御前演奏を行う。2019年第2回にたち賞奨励賞受賞。新国立劇場オペラ研修所第16期修了。平成28年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてイタリア・ミラノ及びスイス・ルガーノにてLuciana Serra氏のもと研鑽を積み、ナポリでのマスタークラス、ザルツブルグ・モーツァルテウムサマーアカデミー等を受講しディプロマ取得。これまでオペラでは、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・パスクワーレ』ノリーナ、『なりゆき泥棒』ベレニーチェ、『こうもり』アデーレ等を演じている。コンサートソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団等と共演。またヴィヴァルディ『グローリア』、チルコット『レクイエム』等、宗教曲のソリストも務めている。第24回リッカルド・ザンドナイ国際コンクール(イタリア)にて特別賞を受賞。第16回東京音楽コンクール(2018)声楽部門第2位。本年9月、東京二期会オペラ劇場『魔笛』パパゲーナ役で出演予定。二期会会員。

村上寿昭

東京生まれ。ピアノを塩野圭子氏に師事。桐朋学園大学にて指揮を小澤征爾、黒岩英臣、秋山和慶の各氏に師事。大学在学中から、新日本フィルハーモニー交響楽団、サイトウ・キネン・オーケストラにて、その後も水戸室内管弦楽団、ウィーン国立歌劇場で小澤征爾氏のアシスタントを務める。1997年渡独。ベルリン国立芸術大学でマティアス・フスマン教授に師事。また2000年からは文化庁海外研修者として、またロームミュージックファンデーションの助成を受けウィーンへ留学。ウィーン国立音楽大学でレオポルト・ハーガー教授、湯浅勇治氏に師事。2004年から2006年までオーストリア・リンツ州立歌劇場に在籍、2006年からドイツ・ハノーファー州立歌劇場に転じ、2008年から2012年まではカペルマイスターとして数多くのオペラ、バレエを指揮。新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティー・フィル、大阪交響楽団、京都市交響楽団、京都フィル、岡山フィルなどを指揮。2016年小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトXIVにて「こうもり」を、翌年は「カルメン」を指揮(小澤征爾氏と振り分け)。2016年セイジ・オザワ松本フェスティバルにてGigコンサートを指揮。現在、東京芸術大学講師、桐朋学園大学音楽学部講師、新国立劇場オペラ研修所講師。